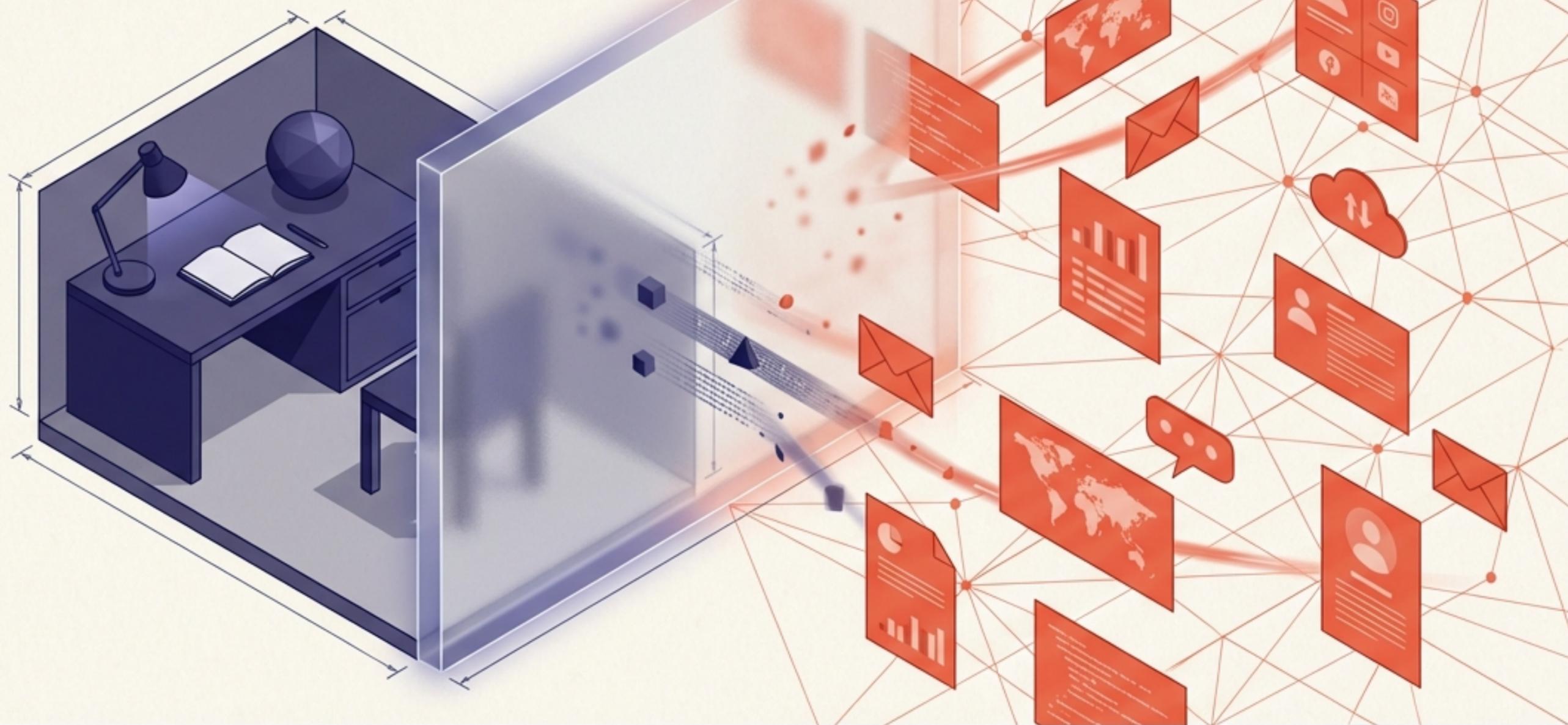


透かし壁の向こう側：デジタル時代を 生き抜くプライバシーの作法

自己防衛と相互尊重のデジタル・シチズンシップ



自己防衛（意識）

Webに個人情報を
書き込まない

95人

実際の被害（現実）

個人情報の漏洩

118人

意識と現実のギャップ。インターネット利用者の多くが「個人情報を書き込まない」という自己防衛を意識しているにもかかわらず、依然として「個人情報の漏洩」が圧倒的トップの被害となっています。壁は私たちが思う以上に透けています。

(1) 自分のプライバシーを守る

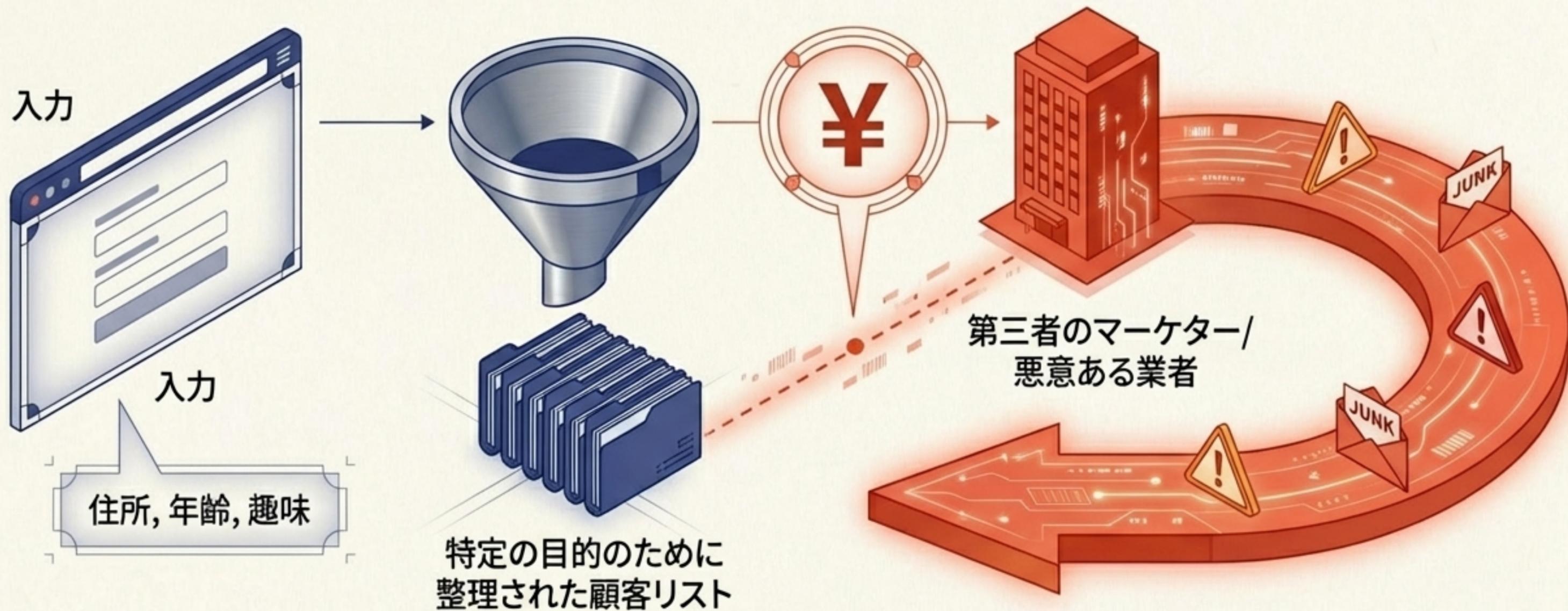
望まない情報の流出を防ぐ
「自己防衛」の壁。

(2) 他人のプライバシーを尊重する

無自覚な加害者にならないための
「相互尊重」の壁。

この2つの壁(フィルター)を意識することから、安全なデジタルライフが始まります。
インターネットは実世界よりもドライな世界です。すべては「自己責任」の上に成り立っています。

The “Free” Data Pipeline



無料の懸賞サイトは単なるサービスではありません。あなたのデータは「販売戦略」や「リスト売買」のための強力な商品です。入力したデータがどこへ回されるか、完全に把握することは不可能です。

Trust Diagnostic Flowchart

送信ボタンを押す前に

1. プライバシーマークや
個人情報保護マークはあるか？



NO → 危険。入力を避ける

2. 「会社概要」に住所や電話番号の記載はあるか？
(メールアドレスのみは危険)

NO → 中止

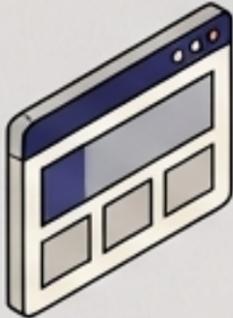
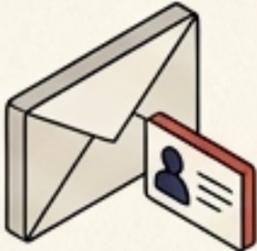
3. どうしても必要な項目 (必須) に不審な点はないか？
(例：なぜこのサービスでこのデータが？)

YES → 中止 (たとえポリシーがあっても信用不可)

NO → 必要最小限の情報のみ送信

信用のあるサイトであっても、内部の不正や外部からのハッキングによる漏洩事件は後を絶ちません。
提供する情報は「必要最小限」に絞りましょう。

アイデンティティ管理：リスクと対策のマトリックス

デジタル環境	主なリスク	アイデンティティ戦略と対策
<p>電子掲示板・チャット</p> 	<p>のぞき見、ストーカー的被害、誹謗中傷</p> 	<p>ハンドル名（仮名）を使用。本名・住所・大学など個人が特定できる情報は避ける。被害時は主宰者に削除を要する（正当な権利）</p> 
<p>ホームページ（個人のサイト）</p> 	<p>日記などの誤解、自発的なプライバシーの暴露</p> 	<p>抗議用メールアドレスは明示するが、本名や身分は最小限に。知られたくない情報を書かなければ理解できない内容は、そもそも掲示しない</p> 
<p>電子メール（就職・ビジネス）</p> 	<p>いたずら被害、フォーマルな場での不適切さ</p> 	<p>女性とすぐわかるIDやふざけた名前は避ける。「送信者（From）」の表示名を複数用意し、相手や状況によって使い分ける</p> 

表面上のプロフィール



実際の操作者



相手に気を許すな。女性らしい表現でチャットをしても、実態は全く違う人物かもしれません。カモを物色する人間は、複数のメールアドレスを使い分け、別の人物を装ってあなたに近づきます。

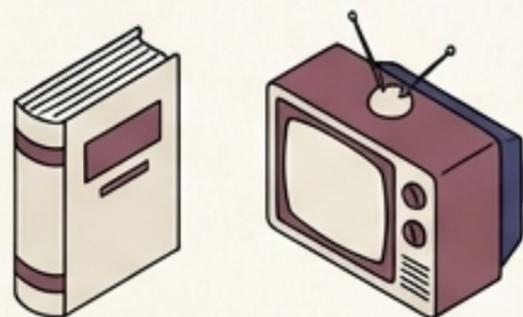
プライバシーの主観性：境界線のスペクトラム



プライバシーとは、客観的な範囲があるのではなく、「本人がプライバシーであると思うことがプライバシー」なのです。他人が判断することではありません。「自分の意思に反して他人に知られたくないこと」を尊重しましょう。

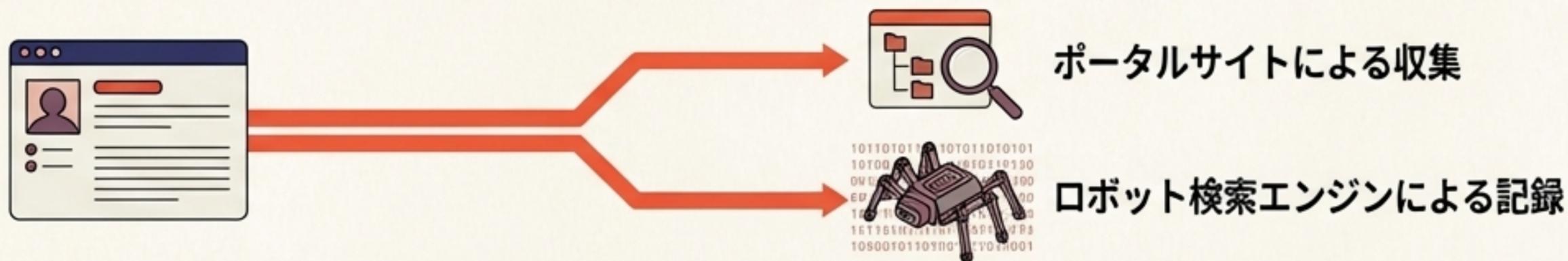
情報の永続性（アナログ vs デジタル）

アナログ（一時的）



出版物やテレビ放送は、時間が経てば消え、見る人も限られます。

デジタル（永久的）



インターネットは世界中の数億人が見る機会があり、積極的に削除しない限り「永久に」残ります。

「どうせ私のサイトなんて見る人は少ない」という油断は禁物です。
ロボット検索エンジンは部分的な文字からでもあなたのページを発見し、記録し続けます。

偶発的な暴露：知らぬ間のプライバシー侵害



友人の交友関係や
所在地の無断公表

肖像権の侵害

褒め言葉であっても、
当人は不快になる
可能性がある

思いがけない
プライバシー侵害。

他人のことには
触れないのが最も
安全です。

他人の情報や写真
を掲示する際は、
必ず「当人の承諾」
を得るエチケット
を守りましょう。

他人があなたの
情報を掲げるときを
承諾するなら、
その結果は
「あなたの責任
(自己責任)」です。

デジタル・ シチズンシップ

あなたが他人の情
報を掲げるときは、
必ず「相手の承諾」
が必要です。

インターネットという共有空間では、あなたのプライバシーは友人たちの
手に委ねられており、他人のプライバシーはあなたの手には委ねられています。
「自己防衛」と「他者への配慮」の両輪が揃って初めて、
私たちは透かし壁の向こう側で安全に生きることができるのです。